

(陳受2第6号)

市立小・中学校のオンライン教育に関する陳情

受理年月日

令和2年6月3日

陳情者

陳情の要旨

新型コロナウイルスによる社会活動粛清により、学校教育も多くの影響を受けていると存じます。武蔵野市の中学校においては、3月初旬から休校となり、以降、自宅での復習(宿題)が、3カ月弱続いている状況です。これまで終業式、分散登校、学校のホームページでの課題更新案内等はありませんでしたが、授業はなく、生徒個々の自宅での復習が続いている状況です。

一方、私の知っている大手学習塾においては、生徒の親御さんから、対面授業に対する感染懸念が寄せられ、塾設備にIT環境がない状態から1週間ほどの、4月中旬からオンライン授業が立ち上がりました。非常に短い期間で、従来と同質の授業が生徒たちに提供されており、ゼロからの短期立ち上げが、この日程でできることが実証されています。

また、私の勤務先では、この緊急事態対応により、急遽、在宅指示が出され、ウェブミーティング対応を余儀なくされましたが、在宅移行前日に社内でのウェブミーティング模擬実験を行っただけで、そのまま在宅突入となり、非常に短い期間の準備で本番を迎えました。結果、50歳以上のITリテラシーが低い社員を含め、特に支障もなく、通常勤務と同質の業務ができており、むしろ、ミーティングを重ねるたびに、細かな改善、ルールやモラルの調整が進み、日に日に改善されている状況です。端末へのウェブ会議ツールのインストール、使い方も知ってしまえば簡単なものです。まさに、「案ずるより産むが易し」を肌で感じたところです。

子どもたちはやわらかいです。これからのIT時代に向けて、一刻も早く、IT環境下でのオンライン授業にふれ、経験させることが何より重要だと考えます。

学校においては、小学校・中学校間の、子どもたちの成長度合いの違いや、複数の学校で横並び、公平性のある実施の必要性など、いろいろな難しさがあると存じますが、必要に応じて、立ち上げ実績のある塾などの教育関連企業への情報提示等の協力要請や、コンサルタント導入などで、十分に短期のオンライン教育の立ち上げが可能です。

既に、休校より3カ月間、新しい授業はとまり、子どもたちの学習は、自発的な復習しかできない状態が続いています。これから段階的に学校再開という局面に入りはしましたが、一方で、小金井市の病院や、北九州市における小学校を含むクラスター発生など、今後も予断を全く許さない状況で、今後も自宅学習に戻る可能性があります。

また、小学6年生、中学3年生の受験生においては、私立学校では既にオンライン授業により、カリキュラムが進んでいる状況を横目に、受験に対して不

安な日々を送っております。

以上のことから、下記の点を市に要望いたします。

記

- 1 引き続き、オンライン授業への取り組みを継続し、一日でも早く、「武蔵野市立小・中学校にて、いつでもオンライン授業を始められる状態」にしてください。
- 2 今後の環境変化に必ず必要となる教育の備えですので、段階的な学校再開とは明確に別な活動として、取り組んでください。
- 3 学校教育の再開後も、SARS後のシンガポールのように、年に数回、定期的にオンライン授業を実施し、教師・生徒がなれる機会を設けてください。